



松田 晋哉●著

『基礎から読み解く DPC 正しい理解と実践のために』 第2版

書評者

島本 和明 (札幌医科大学)

大学附属病院をとりまく医療環境は最近、大きく変わりつつあるが、なかでも最も大きな要因として独立行政法人化、卒後研修の義務化そしてDPC制度の導入がある。DPC制度は、2003年4月より特定機能病院において開始され、2006年度からは対象が大きく拡大してきている。病院の経営改善が叫ばれる現在、DPC制度は少なくとも現時点では経営を圧迫するものとはなっていない。ただし、大学病院（特定機能病院）の急性期医療への役割分担の期待そしてその方向へ行政指導が強まる中で、病床利用率を維持したままでも在院日数縮小を図らざるを得ない状況となっている。そのような意味では、DPC制度の理解と応用が、病院本来の戦略を確立していく上で重要となる。

『基礎から読み解くDPC』は、DPC制度を立ち上げのときから、立案・普及に尽力してきた松田晋哉先生が、専門家・指導者の立場で、わかりやすくDPCとは何か、そしてDPCの応用に

ついて書かれていたもので、DPCに関わる医療関係者にとっては必読の書であり、多くの医療関係者に福音をもたらしてくれた名著である。DPCの2006年度改正に対応して今回、第2版が刊行された。対象病院が大学附属病院より拡大され、DPCのもつ意義も、特定機能病院から急性期医療を中心とする一般病院へと広がり、医療界全体の大きなテーマとなりつつある。

変貌する医療の中で、DPCを正しく理解することが、まず病院経営上必須であることは言うまでもない。加えて、松田先生が常に強調されるのは、経営に加えて質の高い医療へのDPCの応用である。所属する医療圏における自らの病院の位置づけや競合する他病院の解析から、自病院に必要とされる要因を導き、将来ビジョンを作るにも有用である。そして、そのような解析をしていく上で、OLAP (Online Analytical Processing) による蓄積されたデータを多角的に、視覚的に解析する方法も紹介されている。

このように、病院経営から質の高い医療まで、DPC制度の正しい理解が大きな助けとなる。そして、最終的には医療安全まで考慮した自らの病院の将来像を描き、効率的に病院改革を進める上で最も重要かつ効率的な手法となるであろう。

DPC制度の理解のために、本書がわかりやすい入門書であると同時に、深い内容に満ち、読者のレベルに合わせてDPCに関する大きな情報を与えてくれる。松田先生には、講演、研修、会議などを通して常日頃より御指導いただいているが、本書を読んで、さらに松田先生のお考えが鮮明となった。医療制度がDPCを中心に大きく変貌しつつある現在、多くの医療関係者に読んでいただきたい書である。

B5 頁196 2007年 医学書院刊
定価 3,150円 (本体 3,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-00429-9]

